

大源太川第1号砂防堰堤建設の契機

- 昭和10年、未曾有の暴風雨により、魚野川上流域では山崩れを伴う大氾濫が発生し、沿岸町村59集落が600町歩に及ぶ田畑とともに冠水、濁流の太湖と化しました。
- 農作物の収穫が皆無となったほか、開通したばかりの上越線も壊滅的な被害を受け、長期に渡り不通となるなど、地域の生活や経済に甚大な被害をもたらしました。
- この災害を契機に魚野川における直轄砂防事業が着手され、特に荒廃していた大源太川においては、基幹堰堤である大源太川第1号砂防堰堤をはじめ、3基の砂防堰堤が計画されました。



湯ノ沢橋(上越線)



上越線線路位置

湯ノ沢川橋付近の線路埋没状況



清水トンネル

■ 国防上も重要な砂防事業

昭和6年に開通した上越線は、当時、中国や旧ソ連と首都圏を結ぶ重要交通路でもあり、国防上の観点からも、本路線を含む物流網を土砂災害から保全することが重要視されていた。



- ✓ JR土樽駅の東にあった国鉄職員宿舎12棟28戸が土石流により流失し、死者2名の被害
- ✓ それまで10~15m程度であった川幅が、1日にして120mに拡大するほど状況が一変